



東ティモール民主共和国の 給水事情について

千葉県企業局 櫻井 俊彰
(令和7年度抄録委員会委員)



1. 東ティモール民主共和国(東ティモール)について

東ティモールはポルトガルとインドネシアによる統治を経て、2002年に独立を果たした21世紀最初の独立国家でアジアで最も若い国と言われており、2022年時点で人口は約134万人、首都ディリでは約27万人となります(図-1)。

2025年10月26日には、東南アジア諸国連合(ASEAN)に11番目の加盟国として正式に承認され、同国のシャナナ・グスマン首相と我が国の高市首相との挨拶も報道等で話題となりました。



図-1 東ティモールの位置関係

2. 首都ディリの給水事情について

首都ディリでは、東ティモール水道公社(BTL)が水道事業を担っており、表流水を水源とする3つの浄水場、地下水を水源とする1つの浄水場と約30の井戸により給水されています。

ディリでは、住民がドリルで配水管に穴をあけるなどの違法接続による盗水や配水管の漏水が多発し、1日に数時間しか給水できない時間給水の状況となっています。給水サービスの低下は料金未払いの住民を増やし、また、少しでも多くの水を得るために水を流しっぱなしにする住民が増えることでますます給水サービスと料金支払い率が悪化する悪循環に陥っています。

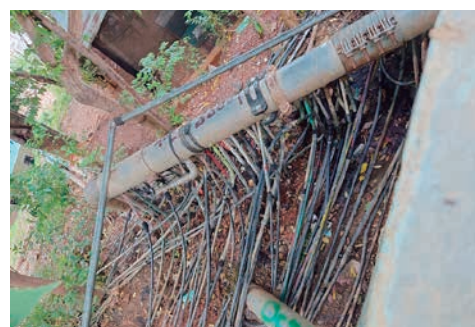


配水管の大規模漏水

3. 千葉県営水道の技術支援について

このような状況の中、千葉県営水道では、独立行政法人国際協力機構(JICA)からの要請を受け、平成24年度から東ティモールへの技術支援を行っています。令和6年12月までに、長期派遣5名、短期派遣29名の延べ34名の職員を派遣してきました。長期派遣では水道システム全般の改善や配水ブロックの導入に向けた技術指導を、短期派遣では浄水場の運転管理や水質管理などに関する技術指導を実施してきたところです。

これらの技術指導の取組により、1日に数時間しか給水できなかった首都ディリの一部地域において、24時間給水が実現しており、地域の住民も喜んでくれています。



違法接続の様子(スパゲティ配管)



水道管工事の指導



薬品注入ポンプ修繕の指導



24時間給水が実現した地域